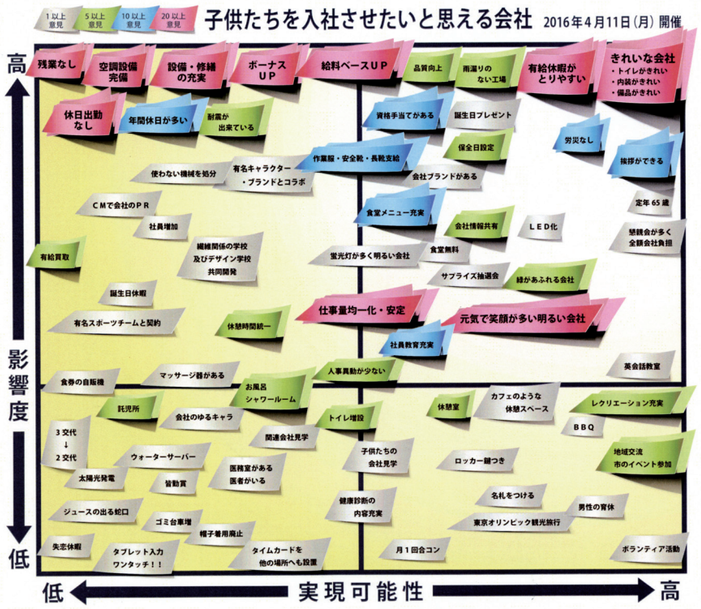
事例 1

支援メニュー ●地域資源ファンド事業 ●産学官連携推進事業（3回） ●販路開拓総合助成事業（海外）
●農商工連携マッチングミーティング等開催事業/商談会

第一編物株式会社

「いい会社マップ」をヒントに自社商品を持ち ナノファイバーの技術にも挑戦



同社の現在の「いい会社マップ」（第4版）。社員全員が意見を出し合う。第1版の意見から、オリジナルブランドの商品を持つようになった。

地域資源ファンド事業の支援を受けて生まれた登山ウェアの「クラシックシャツ」。

富山県繊維協会が県の支援を受けて展示会に出展。その一部を間借りする形で同社の登山ウェアを展示。

「2010年に私が代表に就いた時、当社には経営理念がありませんでした。そこでいろいろ考えて『私たちのまわりにいる子供たちを“入社させたい”と思える会社を創ろう』を経営理念にすることにしました。ただ、どのような会社がいい会社なのか……。これは私ひとりの考えを押し付ける訳にはいきませんので、社員みんなに呼びかけて意見をポストイットに書いてもらい、座標軸に落とし込んでみました」

といって小田浩史社長が取り出したのが、上に掲げた同社の「いい会社マップ」だ。（第4版）。X軸は実現可能性、Y軸は影響度の大きさを表し、社員全員の意見をプロットしたもの。2010年の第1版作成時には「自社ブランドの商品を持ちたい」とポストイットに夢を書いた社員がいたという。

そうした意見が出てきた背景は……。

オリジナル商品が水平展開して

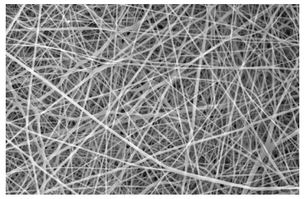
第一編物はニットの染色加工の分野では国内最大手だ。合繊大手メーカーや総合商社との取引きを有するのはもちろんのこと、医薬品や自動車メーカー向けの資材用生地をつくるなど、幅広い商品展開を行ってきた。しかしながら、「第一編物」のタグのついた商品はなかったのである。

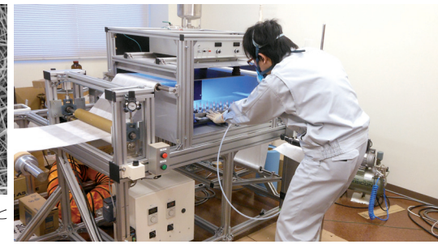
「家でお子さんに『あの自動車のシートの生地はお父さんの会社がつくっているんだ、といっても子供にはピンとこなくて、張り合いがない』という意見を何人もの社員から聞きました。そこでTATEYAMA　Wa'U（タテヤマ・ワウ）というブランドを立ち上げ、山登りに適したウェアを開発することにしたのです」（小田社長）

一般的な登山ウェアは、吸水速乾・撥水・抗菌・防風などの「機能」が特に重要視される。同社は従来からの強みであるこれらの「機能加工」に加え、「起毛（毛を立てる加工）」「インクジェトプリント」などの同社の強み技術を高度に融合し、ウェア開発を行った。そしてより実用的な商品を目指すため、立山ガイドの四代目・佐伯平蔵氏の意見を参考に、グループ会社が協同し「糸」「編み立て」「染色・特殊加工」「裁断・縫製」などすべてを考えた企画開発に取り組んだ。また商品開発に弾みをつけるために「地域資源ファンド事業」（平成28年度）の支援を受けた。

その結果生まれたのが、基本ウェアの「クラシックジャケット」と「パンツ」、そして中間着の「ミドラー」や「山アロハ」といわれるアロハシャツだ。登山用品の販売店やグループ企業併設の小売店の他に、同社のホームページならびにネット通販サイトに出店して販売するようになると、登山愛好家に知られるようになり商品が動き始めた。そして登山ウェアを水平展開して、農業ウェアや女将ウェアも誕生したというわけだ。

登山ウェアが水平展開してできた農業ウェアと女将ウェア。





ナノファイバー不織布の開発の様子とナノファイバー不織布の顕微鏡写真。

ニットからナノファイーバーの世界に挑戦

本業の染色・加工技術の開発にも同社は力を入れている。例えば医薬品メーカー向けに製造しているある生地は、医薬品メーカー協力の下、同社が業界に先駆けて開発したものであるが、後発品との差別化や消費者ニーズにより求められる品質は高まるばかり。肌着のようになじんで、使用感を感じないような生地にして欲しいという要望が相次ぐようになった。

小田社長が語る。

「このニーズに応えるには、従来のニットの技術だけでは限界があり、ナノファイバー不織布を利用することにしました。ところが不織布には強度不足の課題があり、それを補うための技術開発が必要でした」

同社では「産学官連携推進事業」（平成26～27年度）の支援を受け、また富山県工業技術センターの協力も得て新しい医薬品用資材の開発をスタート。2年に及ぶ開発を経て、試作レベルの生地を完成させたのだが、量産技術の開発と安全性の確認という宿題を残すことに。それを継続研究のテーマとしつつも、翌年度同事業の採択を受けて、新しい生地をスポーツや美容の分野で応用する試み、さらにその翌年も同事業の採択を受けて、生地をより薄く、より強くする研究に臨んだ。

「開発はまだ途上ですが、当社としては新しい医薬品用資材を成功させたいと思っています。そこが一番、品質も安全性も高いものが求められ、それがクリアできたら他への展開は容易ではないかと考えています」

小田社長は今後の抱負も交えながら取材を締めくくったが、「いい会社マップ」のリクルート効果などについて話はその後も続いた。

Profile

所在地　砺波市庄川町青島11
資本金　8000万円
従業員　122名（グループ全体249名）
事　業　繊維染色、付加価値加工
ＴＥＬ　0763-82-3031
ＦＡＸ　0763-82-3035
ＵＲＬ　http://ichiamiaz.co.jp

事業を引き継いだ時、経営理念の策定から入った小田浩史社長。社長が着ている上着は、登山ウェアを水平展開させた作業着ウェア。